

情報：米国のウエストナイルウイルス感染症

ウエストナイルウイルス感染症の病原体は日本脳炎ウイルス群に属するウエストナイルウイルスです。蚊等の吸血昆虫を介して馬、野鳥、ヒトなどに感染して脳炎を引き起こします。日本には未だ侵入していませんが、1999年以來、流行が拡大している米国からの侵入が危惧されています。

2004年、米国ではこれまでになく早い時期からヒト、馬、野鳥および蚊族にウエストナイルウイルスが流行し、更なる感染拡大が懸念されています。以下にその概要を記します。

なお、当所においても昨年に引き続いて6月下旬より蚊からのウエストナイルウイルス分離検査を開始します。

1．ヒト

2004年5月26日アリゾナ州で6名、27日に隣のニューメキシコ州で1名の患者が確認されました。アリゾナ州における蚊族の発生時期は例年8～9月であるといわれています。

2．馬

2004年5月29日、バージニア州で飼養される1頭のサラブレッド牝馬が発症し、安楽死処分となりました。同州では2003年7月15日の症例が最も早期の症例でした。

3．野鳥

2004年5月28日、カリフォルニア州は157羽の死亡野鳥からウエストナイルウイルスが検出されたことを発表しました。死亡野鳥の主体はカラスでありました。

4．蚊族

2004年5月28日、インディアナ州でウエストナイルウイルス感染蚊族が確認されました。蚊族を対象とした最近数年間のサーベイランスの中で、最も早期の流行確認となりました。